さいたま赤十字病院 院外報

かがやき

FREE
ご自由にお持ちください
Vol.56
令和3年度
3号

Contents

- 病院長　年頭挨拶 …… P2-3
- 診療科からのメッセージ …… P4
  - ► 脳神経外科　► 循環器内科
- 総合支援センター便り …… P5
- 職員紹介 …… P6
  - ► 臨床心理士の業務について
- お仕事紹介コラム …… P7
  - ► リハビリテーション課
- コロナ～そと、福は～うち …… P8

表紙：「ヒポクラテスの木」植樹式

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society　さいたま赤十字病院
Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構
認定第 JC528 号

院長年頭挨拶

令和４年１月　院長 安藤 昭彦

新型コロナウイルス感染症の終息が未だ見通せないばかりかオミクロン株による感染拡大第６波が危惧されるなか、面会等において患者さん並びに御家族の皆様には多大なるご不便をおかけし心よりお詫びを申し上げます。またコロナ禍における時限的な対応のみならず当院の運営方針に寛大なるご理解、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、創立以来 80 年余りもの長い歴史に幕を閉じ、旧病院からさいたま新都心医療拠点に移転して丸５年が経過しました。移転を機に高度救命救急センター、総合周産期母子医療センターにそれぞれバージョンアップするなど高度急性期機能をより明確化し、いわゆる５疾病５事業を中心とした高度急性期医療を当院が果たすべき役割と位置づけ取り組んで参りました。

救急医療ではドクターカーがすっかり定着し、プレホスピタルケアに多大なる貢献をしています。周産期医療においても、少なからず他都県に依存していた母体搬送を県内で完結できる体制作りに寄与し期待以上の成果と自負しているところです。これら新病院での取り組みが評価され、平成 30 年度救急功労者総務大臣表彰をいただきました。

赤十字病院の最も重要なミッションである災害医療についても毎年のように発生する災害被災地にDMATあるいは救護班を派遣し、埼玉県の防災対策では中心的な役割を担う病院として基幹災害拠点病院に指定されています。

がん診療においては最新鋭機器による診断能力の向上やサイバーナイフによる最先端放射線治療の他、内視鏡下手術や胸部、腹部鏡視下手術、最近ではロボット支援下手術も着実に実績を重ねがん手術療法も飛躍的に充実して参りました。がん薬物療法においてもがんゲノム医療連携病院として個別化医療を提供する体制が整ってきたところです。

循環器疾患領域では不整脈や虚血性心疾患に対するカテーテル治療を数多く行い、ハイブリッド手術室で行う経カテーテル大動脈弁置換術なども実績を積み重ねているところです。脳卒中の分野においても埼玉急性期脳梗塞治療ネットワーク（SSN）で、脳血管内治療（血栓除去術）が可能な基幹病院としての体制を整えています。

精神疾患領域においては、救急搬送された重症外傷など入院治療が必要な身体疾患を持つ、一般病棟では対応困難な精神科の患者さんなどを収容する精神科身体合併症病棟も新設いたしました。

その他、当院でドナーの肝部分切除を担当し小児医療センターで生体肝移植を行う二病院共同で立ち上げた移植センターも着実に成果を上げています。また、成人の先天性心疾患を小児医療センターとの連携で治療する取り組みも順調に進められています。

このように当院を含め多くの医療機関が対コロナ診療と一般診療の両立を模索する一方でコロナ禍による大きな痛手を被るなか、さいたま赤十字病院がこの 5 年間で数々の成果を上げ進化し続けることができたのもひとえに患者さんを始め多くの方々のご理解、ご支援の賜と深く感謝をしているところです。今後新型コロナウイルス感染症がどのようになっていくかわかりませんが、いずれにしても進化し続けることがこの地域に於ける中核病院としての責務だと考えています。

今、世界中の企業が長期的に成長するために ESG（環境 Environment、社会 Social、ガバナンス Governance）への配慮が重要であるとの考え方が広まっています。温暖化や気候変動などの環境問題、人権問題や差別などの社会問題、組織としてのコンプライアンス違反などガバナンス欠如、様々な課題解決に向けた取り組みを強化することで企業としての持続的成長につながるとされています。

ESG が注目され始めた背景の一つに労働問題があります。つまり利益ばかりを追求することで労務環境が悪化し、労働生産性が低下することでかえって業績悪化につながり企業としての成長が阻害されるという考え方です。これには今後生産年齢人口が世界の主立った国で激減する局面にさしかかっていることと無関係ではありません。

医療においても同じことが言えます。勤務環境の悪化により作業パフォーマンスが低下すれば生産性の低下どころか医療事故を招きかねないことになり、病院組織として持続的な成長は到底望めません。

そこで今年度、病院の基本方針として「健康経営を推進し、働きやすく活気あふれる職場作りに努めます。」を掲げました。これまで日本の医療は医療従事者の自己犠牲的献身によって支えられてきたと言われていますが、医療そのものが高度化し、また複雑化していることもあってこれまでの体制では持続可能性が危ぶまれています。医療従事者の働き方改革も効率化等で業務を改善しやりがいを持って働ける勤務環境の整備による良質な医療を継続的に提供できる体制作りが本来の目的であり、最優先事項の一つとして取り組んで参ります。

MESSAGE 診療科からのメッセージ

脳神経外科（のうしんけいげか）

■入院治療を中心に、幅広い脳神経外科疾患に対応

第一脳神経外科部長
髙橋 俊栄

さいたま市及び周辺地域の基幹病院の脳神経外科として、脳神経外科疾患に対して幅広く対応しています。病状が落ち着いたのちは近隣の脳神経外科クリニックなどと連携を取りながら、入院診療をメインに診療をしています。脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血には開頭クリッピング術またはカテーテル塞栓術について症例毎に最善と考えられる方法を選択、未破裂脳動脈瘤に関しても、双方のメリット、デメリットなどを十分に患者さん、ご家族と相談しながら治療方法を選択しています。今までも脳腫瘍に関しては、頭蓋底含む良性脳腫瘍の他、術後の放射線・化学療法を含む悪性脳腫瘍に対応してきました。下垂体および近傍脳腫瘍に対する経鼻内視鏡的腫瘍摘出術についても令和３年２月より開始しました。三叉神経痛、顔面痙攣といった機能的疾患、正常圧水頭症に対するシャント術にも取り組んでいます。

平成 27 年から、超急性期脳梗塞に対する脳血栓回収術を施行しており、外来診療が一時的にストップすることもあり、ご迷惑をおかけしています。脳外科疾患には、このように時間的猶予が全くないもの、比較的急いで治療を考慮したほうが良いものがあります。急を要すると考えられる際、予約が取りにくい際などは、医療連携課に相談をお願いいたします。早期に外来受診ができるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

循環器内科（じゅんかんきないか）

■ 24時間365日、循環器疾患の患者さんを受け入れています

第一循環器内科部長
松村 穣

心血管疾患は、急性冠症候群（急性心筋梗塞や不安定狭心症）、急性心不全に代表されるように救急治療を要することが多く、当科では 24 時間 365 日救急対応ができる体制で診療にあたっております。さいたま市周辺地域では当科は最も歴史が長く、地域の循環器救急診療に貢献して参りました。これからも地域の皆様のお役に立てるよう努力してまいります。

■多分野にわたり高度な専門的治療、最新の治療を提供しています

心血管疾患のカテーテル治療、不整脈のカテーテル治療やペースメーカーなどのデバイス治療、弁膜症や先天性心疾患などの構造性心疾患のカテーテル治療などを得意としています。心不全やすべての心血管疾患に対する内科的薬物療法、心臓リハビリテーション、成人先天性心疾患などの診療にも、それぞれ専門医を配し、高度な専門医療を提供しています。また心臓血管外科とは常に協同し、患者さん一人一人にとって最適な医療が提供できる体制を整えています。

循環器疾患の治療は日進月歩に進化しています。今年度も新しいカテーテル治療（卵円孔閉鎖術や左心耳閉鎖術）を導入するなど最新の技術、治療で、地域の皆様の健康に寄与できるよう日々努めています。循環器疾患のことは、ぜひ当科にご相談ください。

総合支援センター便り

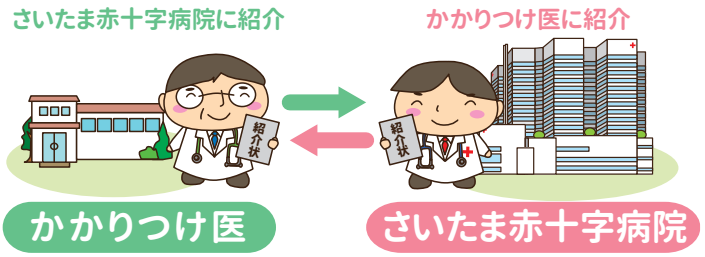
Vol.4

医療連携課

当院は完全紹介予約制ですので
受診の際には事前予約が必要です
※初診の際は、他の医療機関からの紹介状が必要です

当院は、患者さんの健康を地域で支えていくという取り組みにおいて、専門的治療や手術、また入院を伴う治療などを行う高度・急性期医療の役割を担う病院です。ふだんの生活の中で不調を感じた場合や健康管理に関する相談の際には、かかりつけの医療機関をご受診いただき、かかりつけの先生がより高度で専門的な治療や検査が必要だと判断した場合に当院を紹介いただいています。

また、当院で行う治療が終了した際は再びかかりつけの先生や登録医（※）を患者さんの症状に応じた医療機関へ担当医の判断のもとで紹介しています。こうして当院とかかりつけの医療機関やその他の医療機関が役割分担することが地域医療連携の大きな柱となっています。



医療連携課では、地域の先生方との窓口として主に転院の受入れ、緊急受診の取次ぎ等の業務を行う一方で、院内業務としてお返事の発送、かかりつけ医を探すお手伝い等を行っております。

ご予約に際しましては、医療機関と患者さんの窓口がそれぞれ異なりますのでご留意ください。なお、初診の際は他の医療機関からの紹介状が必要となります。患者さんにおかれましては、紹介状をお手元にご用意の上、予約センターまでご連絡ください。

【患者さん専用】　予約センター　**048-852-1180**（平日 9:00 ～16:00）
【医療機関専用】　医療連携課　**048-852-1168**（平日 9:00 ～17:00）

（※）登録医について

当院では「登録医制度」を設け、地域の医療機関が繁密な連携を保ちそれぞれが役割分担をしながら、患者さんに一貫性のある良質な医療を提供できるよう努めております。

登録医のメリットは？

- 認定証を送付させていただきます。
- 2 階総合支援センター横にある登録医ボードおよび当院ホームページにて、医療機関名を掲示させていただきます。
- 共同医療機器、共同利用病床、共同図書室をご利用いただくことができます。
- 患者さんが「かかりつけ医」をお探しの際に、優先的にご案内させていただきます。

★お申し込み方法等、詳しくは当院ホームページ
『総合支援センター・地域医療連携・登録医制度のご案内』をご覧ください。
http://www.saitama-med.jrc.or.jp/chiikiiryourenkei/tourokuiseido.html

登録医ボード

登録医療機関のご紹介にリンクします

登録医認定証

総合支援センター　医療連携課
代表電話 :048-852-1111　FAX 番号 :048-852-1132

※医療連携課からの次回のご案内では「紹介患者さんに関する統計」を掲載します。

さいたま赤十字病院

職員紹介

Japanese Red Cross Society

臨床心理士の業務について

臨床心理士 加藤 奏

常勤の臨床心理士1名により全科の依頼に対応しています。

医療現場における臨床心理士の主な業務は、悩みや精神的な辛さを抱える患者さんの心のケアを行うことです。患者さんの心の状態や、現在抱えている問題、思考や行動の傾向などを理解し、一人ひとりの患者さんに必要なサポートを考えています。

病院は、主に身体の治療をする場ですが、治療が長く続いたり、苦痛を伴うことも少なくありません。「治療のため」と、頭では分かっていても、気持ちがついていかないこともあります。カウンセリングでは、じっくりと患者さんの話を聞き、一緒に考えることで、患者さんが落ち着いて気持ちを整理できるような関りをしています。

また入院患者さんは、終日治療環境に置かれ、「大切な人達」や「日常」から切り離され、不安や孤独感を抱えながら闘病を続けていらっしゃいます。病院の心理士には、医療から離れた存在として、「病気」以外の患者さんの健康な部分を引き出し、**ストレスでギュッと凝り固まった心を緩める**役割もあります。この他、医療現場で使われる知識や言葉は、一般の患者さんにはすんなり伝わらないことが多いので、医療者と患者さん、それぞれの思いを、相互に理解されやすい形に翻訳して伝える、心の架け橋になれるよう努めています。

私の月間業務

外来・病棟でのカウンセリング・心理検査

心療科医師からの依頼により、患者さんの面談や心理検査を行います。患者さんが日々感じていることや、大切にしていることを理解して、治療意欲を維持し、ストレスを緩和するために必要なサポートや関わりについて、他職種に伝える役割もあります。

MPU 多職種カンファ

精神身体合併病棟に入院中の患者さんに関する、治療から退院後の生活までの総合的な支援について多職種で話し合います。

緩和ケアチーム活動

緩和ケア回診に同行したり、緩和ケアチームのカンファレンスに参加しています。

産科での活動

助産師からの情報に基づき、妊産婦さんと外来で面談したり、入院患者さんのお部屋を回ってお話しをしています。また周産期に関わる多職種チームのカンファレンスに参加しています。

職員のメンタルヘルス活動

院内職員の、仕事上の悩みやメンタルヘルスに関わる相談を個別に行っています。またcovid-19 流行下におけるストレス軽減に向けた啓発活動も行っています。

お仕事紹介コラム

リハビリテーション課

リハビリテーション課
久保 通宏

リハビリテーション課業務

リハビリテーション課には、理学療法士（以下PT）、作業療法士（以下OT）、言語聴覚士（以下ST）が所属しています。医師の指示のもと、多職種が関わり患者さんの生活の質の向上や、社会復帰に向けた援助を行っています。当院は高度急性期病院ですので、整形疾患、脳血管疾患、心臓疾患、脳血管疾患、呼吸器疾患、がんや外傷等のさまざま疾患の患者さんの状態に応じてリハビリテーションを提供しています。基本的には入院患者さんが殆どですが、一部の手の外科や集団心臓リハビリ患者さんには、外来での枠を設けています。

PT（理学療法士）とは

運動機能が低下した状態の患者さんに対し、起き上がり・立ち上がりや歩行といった基本動作能力の回復を図るために行う運動や、疼痛緩和や循環改善等に行う物理的手段を用います。当院では運動療法を中心に実施し、運動機能を回復することによって日常生活の改善、社会復帰や更に健康回復維持へと導くことを目指しています。

OT（作業療法士）とは

日常生活につながる実用的な動作（食事、着替え、トイレ、入浴等）や家事などの応用動的な動作の練習を行います。また、手や腕の機能が低下した場合は、手工芸や軽作業を行いながら機能の改善を図ります。更に精神面への働きかけも行い、生活の質の向上を図ります。

ST（言語聴覚士）とは

コミュニケーション（ことばや発語）、摂食嚥下（口から食べて飲み込むこと）に問題がある方に専門的なサービスを提供し、自分らしい生活を再構築するお手伝いをします。言語機能の改善と共に、必要に応じて新たなコミュニケーション手段も検討します。また、安全な食事の形態や姿勢、介助方法などについて助言を行います。

リハビリテーション課の業務の大半は患者さんへの対応です。患者さんに対して各PT、OT、STが1対1で対応することが基本（一部集団有り）です。また、医師や看護師等の多職種カンファレンス、業務会議や各チーム活動、委員会にも参加をしています。

コロナ～そと、福は～うち

当院職員の互助会である「院友会」では、２月３日の節分にあわせ、職員に福豆の配布を行ないました。配布した福豆は、武蔵一宮氷川神社（大宮氷川神社）からご寄付いただいたものです。

本来であれば院内での「エア豆撒き（コロナ～そと、福は～うち）」を計画しておりましたが、現在の感染拡大状況に鑑み中止とし、職員各自が、自身の健康と患者さんの快癒を祈念しました。

コロナ禍において、すでに2年間、職員間の交流や院内での文化活動の一切が中止されているなか、久々の文化的行事となりました。

院友会 文化部

さいたま赤十字病院の理念

赤十字の人道・博愛の精神に基づき、信頼される医療をおこないます。

さいたま赤十字病院の基本方針

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. 地域との円滑な医療連携に努めます。
3. 医療の質の向上に努め、安全な医療を提供します。
4. 優れた医療人の育成に努めます。
5. 健康経営を推進し、働きやすく活気あふれる職場作りに努めます。
6. 国内及び国外での医療救援活動に積極的に参加します。

患者さんの権利

1. 公平で適切な医療を受ける権利
2. 個人の尊厳が保たれ、人権を尊重される権利
3. プライバシーが守られ、個人情報が保護される権利
4. わかりやすい言葉で検査や治療などの説明を受ける権利
5. 自己の決定権が確認され、医療行為を選択する権利
6. 安全・安心な医療を受ける権利
7. 他施設の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利
8. 自己の診療記録等の開示を求める権利

患者さんに守っていただく事項

1. 健康に関する情報を医師や看護師等にお知らせください。
2. 医療行為については、納得したうえで指示に従ってお受けください。
3. 病院内ではルールを守り、他の人に迷惑にならないように行動してください。
4. 診療費の支払い請求を受けた時は、速やかにお支払いください。

かがやき（通巻 56 号）　発行元 さいたま赤十字病院
〒 330-8553 埼玉県さいたま市中央区新都心 1 番地 5
TEL 048-852-1111（代）　編集 広報委員会
ホームページ http://www.saitama-med.jrc.or.jp/